令和４年度　奈良県立奈良東養護学校　学校評価総括表

【特別支援学校用】

年度	令和４年（計画１年目）
教育目標	◇ 児童生徒一人一人の人格や人権を尊重し、個々のニーズに応じて適切な指導及び支援を行い、その可能性の伸長に努める。 ◇ 自立と自律を目指して、主体的創造的に学ぶ力や考える力を育み、心豊かに生きることのできる人間育成に努める。
年間重点目標	☆ コロナ禍でも児童生徒が充実した学校生活を送ることができるように、感染防止対策を取りながら、実施方法や指導の工夫を図っていく。 ☆ 運動会等実施していない行事の再開に向け、十分な計画と準備を行う。

運営方針	＊ 児童生徒の可能性を高めるため、専門性・教育力・教師力の向上を図り、一人ひとりが各自の職責を果たし、チーム力の向上を図る。 ＊ 児童生徒の人格や人権を尊重し、一人ひとりのもてる力を最大限に高めながら１２年間を見据えた成長　・発達を促していく。 ＊ 児童生徒一人ひとりの命を守る安全で安心な学校づくりを進める。

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和４年度末の目標値等(C)	令和４年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策（案）
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生涯において心身ともに健康な生活ができる児童生徒を育てる。	年３回程度、保健・安全に関する教員向けの研修を企画する。	年間4回の研修を実施した。	心肺蘇生法（実技含む）、アレルギー（オンライン）、アレルギー対応（シミュレーション）、保健（オンライン）、４つの研修を実施。	小学部で実施した食物アレルギーへの対応のシミュレーション研修は、実際に動いて気づくことがあり、収穫は大きかった。	危機管理対応のシュミレーションを重ねることは大切である。	引き続き研修を重ねて、実際にスムーズに動くことができるようにする。
	各学部や児童生徒の実態に応じた性教育を進める。	各学部や児童生徒の実態に応じた性教育を一層進め、小中高での系　統性のある学習内容の確立に向けて、こころとからだセルフプランの試行を継続し、４項目から６項目に増やす。	６項目に増やした。	こころとからだセルフプランの試行を継続した。次年度からは本格実施する予定。	一人一人のセルフプランを作成することで、児童生徒の実態をより把握することに繋がった。	保護者のニーズも高いと思うので、性教育の充実を期待している。	R5年度には実際に使用しながら性教育の充実に努める。
２．学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的、対話的で深い学びに向けた授業の改善を図る。	年３回程度、特別支援教育の専門性向上を目指して、校内から講師を選出あるいは外部講師を招聘しての研修を企画する	授業改善につなげるため、年間3回の研修を実施した。	全体研修として、「授業づくり、学習評価を考えよう～“主体的で対話的で深い学び”と“評価の三観点”をキーワードに」をテーマに、自主研修として、「豊かなコミュニケーションを目指して」「作業療法の視点から児童生徒の事例を考える」をテーマに、3つの研修を実施。	全校テーマ「児童生徒が主体の授業を創ろう」に基づき、学校の課題や教員のニーズを把握しつつ、研修を計画した。来年度は全校テーマを「児童生徒がいきいきと学び続けるために～授業づくりを考える」とする予定。3年計画で取り組む予定であり、引き続き教員のニーズをつかみつつ、計画的に研修計画をたてていく。	研修内容は実際に教員のニーズに応じて実施されており、よいと思う。今後はその成果をどう見るのかが必要になってくる。	研修内容は教員のニーズに合っており、今後は研修の成果がどう出ているのかについて、検証しながら研修を進めていくことも試行してみる。
	評価の三観点を意識した授業づくりに取り組む。	・三観点を意識しやすいように個別の指導計画の様式を変更する。 （目標と手立ての順番） ・教育課程検討委員会（６回程度）、教務部会において、 ①個別の指導計画で３観点のよりよい反映方法の検討 ②評価と指導の一体化について検討 を行う。	全体会、担当者会合わせて６回程度打ち合わせを行った。	・個別の指導計画の様式変更は、全学部を通して評価できるよう、具体的な詳細を提示できず、延期した。改めて、３年間で三観点でよりよく評価できるように検討していく。 ・評価と指導の一体化の一環として、新しい指導案の様式、チェックリストの提案を年度末に行った。来年度以降、活用と改善をしながら取組を進めていく。	検討事項が多く、計画的に進めることができなかった。各学部の教科等の目標の明確化し、学校としてのものさしを作るため、ワーキングチームを作り、優先順位を決めて計画、実施していく。また、来年度から研究テーマが新しくなることを受け、三観点の視点をふまえた授業づくりを目指した取組も行っていく。	三観点による評価項目についての事例検討や進め方については、国や県の方向性も踏まえて丁寧に進めるべき。	来年度ワーキンググループを立ち上げて、全教員が評価にイメージが持ちやすいような事例を提示できるよう進めていく。
	GIGAスクール構想の推進を図る。	・Google Workspace for Educationを活用し、コロナ禍でのより良い学習活動へとつなげる。 ・１人１台端末の活用に向けた環境整備を行う。	・Google ClassroomやGoogle Meetを入学式や卒業式などの行事や取り組みで活用した。 ・児童生徒のGoogleアカウントの更新、管理を行った。	・授業に参加しずらい児童や一部の登校できない生徒がリモートで授業に参加することができた。 ・学校YouTubeを使い保護者向けに校内作品展の動画を配信した。	・児童生徒の実態に合わせてGoogle Workspace for Educationを活用することができた。 ・新型コロナウイルス感染症の状況に合わせてリモートの活用を行っていく。	多くの活用の事例を共有できればよい。	同左
３．働く意欲と働く力をはぐくむ	地域の社会資源を有効活用と活動を通して、キャリア発達を促す機会を創出する。	進路体験学習の実施 中２：１回／年 高１：２回／年　高２：基本３回 職場実習 中３：１回／年　高３：３～５回	進路体験学習は中２で１回、高１で２回、高２で３回、職場実習は中３で１回、高３～５回実施した。	中２、３、高１の進路体験学習は３年ぶりに事業所に出向き実施することができた。高２、３の体験や職場実習も実施できたが、コロナ禍の影響で予定していた回数を実施できなかった生徒もいた。	実際に事業所での体験、実習ができたことで生徒の働くということへの意識づけや、卒業後の進路に対する自覚を高めることができた。	学校卒業後の生活を本人、保護者が納得してイメージできるような取り組みを丁寧に進める。	同左
	本人や保護者のニーズに応じた進路指導の充実	進路説明会　年間１～２回開催 進路懇談会は必要に応じて随時行う。	進路説明会は２回実施した。 進路懇談会は必要に応じて行った。	中学部では中1の説明会、高等部では高１対象に動画配信と対面とで２回の進路説明会を実施した。 進路懇談会は個々に必要に応じて随時行ったり期間を設けたりして実施することができた。	進路指導の進め方や福祉の利用、事業所の紹介などをすることで、卒業後の生活へのイメージをもってもらい、個々のニーズに合った進路指導に繋げることができた。	学校卒業後の生活を本人、保護者が納得してイメージできるような取り組みを丁寧に進める。	同左

４．地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティスクールの運営・推進	年２回の協議会開催 各部会での活動を２学期に実施	年２回の協議会を開催した。	学校運営協議会で学校評価を行った。地域協働部会は販売活動や通学路清掃に、地域防災部会は奈良市総合防災訓練に参加した。	販売活動や通学路清掃、草抜き作業等には、地域協働部会の委員が地域住民に参加を呼びかけた。	地域と共にある学校づくりにあたり、地域の方にとっても奈良東養護学校があってよかったと言ってもらえる取り組みを継続する。	同左
	地域と連携・協働し、地域に開かれた教育活動に取り組む。	奈良東応援団との協働での清掃作業、校内草引き等の実施	・完全単通生通学路清掃、校内草引き等を実施した。	・奈良東応援団の方々と協働し、通学路清掃や草抜き作業等を実施した。 ・交流を深めながら、本校の教育活動について理解啓発を図ることができた。	・体育部・生徒指導部と連携し、計画を立てて実施することができた。 ・地域社会と連携・協働し、清掃や校内草抜き等の活動を通して、交流を深めることができた。	地域と共にある学校づくりにあたり、地域の方にとっても奈良東養護学校があってよかったと言ってもらえる取り組みを継続する。	同左
	地域の防災訓練等に参加し、災害時に備える。	・六条地区との合同防災訓練の実施 ・校内避難学習（地震火災避難学習、火災避難学習）を年間２回、スクールバス避難学習を年間１回、単通生安全通学学習を年間３回行う。 ・警察との協同学習として生活安全学習も年間１回行う。交通安全教室や自転車安全学習を年間１回ずつ行い、安全に対する意識を高める。 ・教員の防災意識を高めるためにも、職員防災研修を年間１回実施する。年回６回行う単通生通学路清掃を通して地域の方とも連携し、児童生徒の様子に目を掛けてもらうようにする。	・避難学習や安全通学学習を予定通り実施した。 ・生活安全学習、交通安全教室、自転車安全学習も予定通り実施した。 ・職員防災研修を実施し、地域の方と一緒に通学路清掃も実施できた。	・目標に基づいて、避難訓練や安全学習を計画的に実施することができた。 ・職員防災研修を実施し、防災意識を高めてもらうことができた。清掃活動を通して、地域の方と交流し、連携を深めることができた。	・避難訓練や安全学習を計画通りに実施でき、児童生徒の安全に対する意識を高めることができた。警察の方に話をしていただくことも刺激になった。 ・防災研修では職員の意識も高め、地域の方とも清掃を通して交流できた。	・防災についても、障害のある人たちが利用しやすいように考えなければならない。 ・福祉避難所のあり方とかを学校と地域の防災会とで話し合っていきたい。	同左
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	地域に貢献する特別支援教育のセンター的役割を推進する。	学校見学会12回、体験学習20回、進学相談４回/年実施	・学校見学会　小学部４日間３３人、中学部８日間３２人、高等部７日間８１名 ・体験学習小学部１９日間４６人、中学部１０回１２名、高等部５回 ・進学相談１３回実施した。	・目標に基づいて、学校見学会や体験学習を実施することができた。	・地域の多くの方に参加していただき、就学・進学のために本校のセンター的役割を果たすことができた。	・ケース会議では学校関係者だけではなく、医者や地域の人などいろいろな立場の人を入れてほしい。 ・教育相談のことを知らない人もいるので、啓蒙していってほしい。	本校の特別支援学校のセンター的機能の在り方について、丁寧に共有し進めていくことを確認する。
	お互いの違いを認め合い、いじめを許さない態度を育成する。	・４月の職員会議で、「個人別生活カード」の説明をしたり、「学校いじめ防止基本方針」の周知を図ったりする。 高等部の生徒に対して記述式の「こころといじめアンケート」を実施し、いじめの有無を調査すると共に、教員に対しても「いじめを早期に発見するために実施している取り組み」についてアンケートを実施し、児童生徒の表情や様子の変化に目を配り、複数の目で実態に応じた指導をお願いする。アンケートを回収し内容を分析し、問題があった場合は個別に対応する。	・職員会議でいじめが起こった場合の対応を伝える。また、教師と生徒にいじめアンケートを実施する。	・職員会議で、個人別生活カードの説明を行い、いじめ防止基本方針の説明もした。 ・教師と生徒にいじめアンケートを実施し、問題があった場合は早期に発見する体制を整えた。今年度、いじめ報告はなかった。	・職員会議でいじめが起こった場合の対応を伝えることで、全職員に周知することができた。 ・教師と生徒にいじめアンケートを実施することで、いじめの早期発見と複数の目で見て指導するという意識を持ってもらうことができた。	いじめ防止に学校をあげて取り組みを継続する。	生徒への聞き取りなど、いじめと認識するだけでなく、普段では言いにくい心のうちを話せる機会をたくさんもつことが必要。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

コミュニティースクールや奈良東応援団のボランティアの方々に協力いただき、本校の取り組みに参加いただいた上で、信頼関係を築きながら評価いただく。課題を共有した上で、無理をせずできるところから進めていくという方向性を確認している。